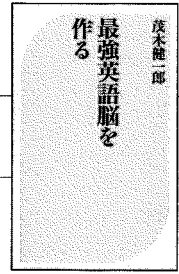
ブック

最強英語脳を作る

茂木健一郎　著
842円　ベスト新書
☎03-5976-9121



本書は脳科学者である筆者の英語体験を基にして、日本人の「英語脳」のつくり方について具体的な事例を挙げて述べられたものである。

2020年に向けて日本の英語教育が大きく変わろうとしている。筆者は、これまでの文法訳読法を前提とした「英語を学ぶ」教育から、英語で自分の意見を述べたり、やりとりしたり、評価しあうといった「英語を生きる」（11頁）こと、すなわち、発信型コミュニケーションを主体とした現場能力を習得するための教育が大切だと主張している。

そして、脳科学の視点から、「英語ができるようになる」ために、(1)「最高のものに目標を定めて、「無茶ぶり」を提案している。これは、「そんなことはできない」「絶対に無理」ということを自分に課し、それを乗り越えることで脳がグンと成長するということであり、著者自身が「無茶ぶりの経験を通して英語力の階段を上ってきた」と認識している。(2)「人工知能に学ぶ外国語学習」では、脳の学習則を参考にしている人口知能は良質のインプットを行う強化学習を行っており、人間も同様にすることを勧めている。

また、日本人が英語を話すためには、単純に英語を学ぶというより、ある種の「態度」、すなわち「恥を捨てる。恥ずかしいという感情を捨てる。また、完璧主義を捨てる。」といった態度を身につける必要もあると言及されている。

さらに、「英語脳」によって、「英語が話せるか話せないか」という言語面だけでなく、英語的な発想ができること、英語で話すことでいろいろな多様性を経験できること、課題に向かって練習したり努力したりして目標を達成することができれば、それが一つの証明にもなること、日本語の充実にもつながること等も挙げられている。

英語や国語等のことばを操る教育者等は勿論のこと「英語」を上達させたいと考えている方に是非読んでいただきたい1冊である。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）